



2025年2月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2025年1月10日
上場取引所 東

上場会社名 株式会社吉野家ホールディングス
コード番号 9861 URL <https://www.yoshinoya-holdings.com>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 河村 泰貴
問合せ先責任者 (役職名) グループ財務経理本部長 (氏名) 石原 浩晃 TEL 03-5651-8800
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無 : 有
決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2025年2月期第3四半期の連結業績(2024年3月1日～2024年11月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年2月期第3四半期	151,751	9.3	5,675	△7.0	6,256	△4.8	3,331	△23.2
2024年2月期第3四半期	138,892	11.3	6,101	209.8	6,573	10.6	4,338	△24.9

(注) 包括利益 2025年2月期第3四半期 3,962百万円(△26.5%) 2024年2月期第3四半期 5,393百万円(△22.7%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年2月期第3四半期	51.49	—
2024年2月期第3四半期	67.07	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年2月期第3四半期	115,392	63,561	54.6
2024年2月期	112,936	60,849	53.4

(参考) 自己資本 2025年2月期第3四半期 62,959百万円 2024年2月期 60,360百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年2月期	—	8.00	—	10.00	18.00
2025年2月期	—	10.00	—	—	—
2025年2月期(予想)	—	—	—	10.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2025年2月期の連結業績予想(2024年3月1日～2025年2月28日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	203,000	8.3	7,000	△12.2	7,400	△14.0	4,100	△26.8	63.38

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2025年2月期3Q	65,129,558株	2024年2月期	65,129,558株
② 期末自己株式数	2025年2月期3Q	418,531株	2024年2月期	433,625株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2025年2月期3Q	64,704,830株	2024年2月期3Q	64,689,835株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

業績予想に関する事項については、添付資料P. 3「1. 経営成績等の概況（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	P. 2
(1) 当四半期の経営成績の概況	P. 2
(2) 当四半期の財政状態の概況	P. 3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	P. 3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	P. 4
(1) 四半期連結貸借対照表	P. 4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	P. 6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	P. 8
(継続企業の前提に関する注記)	P. 8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	P. 8
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	P. 8
(セグメント情報等の注記)	P. 9

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期の経営成績の概況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、所得・雇用環境の改善などを背景に社会経済活動の正常化が進み、緩やかな回復基調で推移しています。物価上昇の影響により若干の足踏みが見られるものの個人消費も持ち直し傾向となりました。その一方で、ウクライナ情勢の長期化などの緊迫した世界情勢の動きに加え、円安によるエネルギー資源や原材料価格の高騰などにより、依然として景気の先行きは不透明な状況です。外食業界においては、経済活動の正常化による人流増加に加え、インバウンドの回復も追い風となり、外食需要は回復基調が継続しています。しかし、原材料価格や人件費の高騰に加えて、継続的な物価上昇により消費者の節約意識が高まるなど、厳しい経営環境に直面しています。

既存事業の業態進化の取組みとして、吉野家は既存店舗の積極的なクッキング&コンフォートへの改装、はなまるは商品の磨き込み（天ぷら粉の改良など）を継続して行っています。また、「吉野家」「はなまる」におけるクレジットカード端末の導入など、店舗運営のシステム化を積極的に進めています。成長事業と位置付けている海外においては、アメリカ、中国ともに現地経済の影響を受けていますが、価格戦略、メニュー構成の見直しなどに継続して取り組んでいます。これらの施策の効果により全社既存店売上高は、前年同期比5.9%増となりました。内訳は吉野家7.7%増、はなまる9.2%増、海外4.6%減（現地通貨ベース）です。

成長事業の強化の取組みとして、今後の事業ポートフォリオ戦略においてラーメン事業を次なる柱と位置付けており、ラーメン店向けの麺、スープ、タレなどの商材の開発、製造、販売を行っている宝産業株式会社の株式を取得し子会社化しました。

サステナビリティの取組みとして、10月に当社東京工場が「食材加工時に廃棄される規格外の玉ねぎ端材のアップサイクル、ならびに持続可能なスキーム構築」について、環境省及び消費者庁が実施している「令和6年度食品ロス削減推進表彰」で「環境事務次官賞」を受賞しました。また、誰もが一生涯、食の楽しみを失うことがない社会の実現を目指して、咀嚼・嚥下機能が低下した方を対象とした「吉野家のやさしいごはん」を展開しており、これを取り入れたデイサービス施設などで開催する介護レクリエーション「吉野家牛丼レクリエーション」が、第54回食品産業技術功労賞マーケティング部門を受賞しました。さらに、生活習慣病を気にかける消費者の食の選択肢を広げることを目指し、「新規高機能牛丼」の産学連携共同研究を太陽化学株式会社、京都府立医科大学と行っています。

店舗出店については、国内58店、海外67店を出店した結果、当社グループの店舗数は2,781店舗となりました。

以上の結果により、売上高は1,517億51百万円（前年同期比9.3%増）、営業利益は56億75百万円（前年同期比7.0%減）、経常利益は62億56百万円（前年同期比4.8%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は33億31百万円（前年同期比23.2%減）となりました。

当第3四半期連結累計期間におけるセグメント別の概況については、次のとおりです。

[吉野家]

店舗数は、37店舗の出店、17店舗の閉店により1,249店舗となりました。秋季期間は商品施策として「牛オム黒カレー・牛オムハヤシライス」「牛すき鍋膳・牛カレー鍋膳」などを販売し、販売施策としては「テイクアウト2つ以上で10%オフ」「吉野家×パワスピ」「秋の牛丼祭（100円引き）」「牛すき祭」などのキャンペーンを行いました。特に13年振りに実施した「秋の牛丼祭」は、幅広い層のお客様に好評でお客様の店舗体験の向上に繋がりました。外販事業は「お歳暮・お年賀セット」「福箱2025」の販売と量販店への拡販強化を行いました。

以上の結果により、当第3四半期連結累計期間におけるセグメント売上高は1,021億9百万円（前年同期比9.2%増）となり、セグメント利益は人材の確保と定着を目的とした先行的な賃上げや店舗の時給改定など人件費を中心としたコスト上昇により57億9百万円（前年同期比2.8%減）となりました。転換を進めている新サービスモデルの店舗数は当第3四半期連結累計期間において412店舗から487店舗と75店舗増加し、テイクアウト・デリバリー専門店と同37店舗から45店舗と8店舗増加しました。

[はなまる]

店舗数は、10店舗の出店、10店舗の閉店を実施し418店舗となりました。秋季期間は商品施策として「3種・4種薬味豚しゃぶうどん」「生姜鶏ねぎ塩うどん、ゆず生姜鶏ねぎ塩うどん」を販売しました。販売施策としては来店

頻度の向上を目指し「天ぷら定期券」「あすトククーポン」を行いました。

以上の結果により、当第3四半期連結累計期間におけるセグメント売上高は231億90百万円（前年同期比5.8%増）となりました。セグメント利益は、人件費を中心としたコスト上昇はあるものの増収効果により18億41百万円（前年同期比27.7%増）となりました。

[海外]

店舗数は、67店舗の出店、77店舗の閉店を実施し984店舗となりました。エリア別概況は次のとおりです。アメリカは既存店売上高前年同期比3.0%減、中国は同8.8%減、その他アセアン地区は同5.2%減、海外合計は同4.6%減（現地通貨ベース）となりました。特に米国（カリフォルニア州）や中国において経済不況が外食産業で大きく影響を受けています。このような状況に対して、米国、中国で低価格セットや新商品の導入に加えて販売施策を強化し打開を図っています。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間におけるセグメント売上高は為替などの影響により211億27百万円（前年同期比4.7%増）となりました。セグメント利益は、人件費を中心としたコスト上昇などの影響により11億49百万円（前年同期比34.9%減）となりました。

(2) 当四半期の財政状態の概況

当第3四半期連結会計期間末の財政状態につきましては、次のとおりです。

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ24億56百万円増加し1,153億92百万円となりました。主な内訳は、有形固定資産の増加66億11百万円、受取手形及び売掛金の増加16億95百万円、現金及び預金の減少61億円です。

負債総額は前連結会計年度末に比べ2億55百万円減少し、518億31百万円となりました。主な内訳は、支払手形及び買掛金の増加6億45百万円、短期借入金の増加23億94百万円、長期借入金の減少34億24百万円です。

純資産は前連結会計年度末に比べ27億11百万円増加し635億61百万円となり、自己資本比率は1.2%増加し54.6%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年2月期の連結業績予想（2024年3月1日～2025年2月28日）は、既に公表しておりますものから修正は行っておりません。なお、当該業績予想は、当社グループが現時点までに入手可能な情報から判断して、合理的であるとした一定の条件に基づいたものです。実際の業績は様々な要因により異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年2月29日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	27,346	21,245
受取手形及び売掛金	5,061	6,757
商品及び製品	3,111	3,831
仕掛品	54	76
原材料及び貯蔵品	4,298	3,280
その他	4,075	4,621
貸倒引当金	△196	△299
流動資産合計	43,751	39,514
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	25,669	28,778
使用権資産（純額）	6,939	6,810
その他（純額）	12,355	15,987
有形固定資産合計	44,965	51,577
無形固定資産		
のれん	1,131	1,377
その他	1,657	1,544
無形固定資産合計	2,788	2,921
投資その他の資産		
投資有価証券	2,534	2,836
差入保証金	11,020	11,210
繰延税金資産	2,230	2,207
その他	5,974	5,721
貸倒引当金	△331	△595
投資その他の資産合計	21,430	21,379
固定資産合計	69,185	75,878
資産合計	112,936	115,392

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年2月29日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年11月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,522	6,168
短期借入金	1,655	4,050
1年内返済予定の長期借入金	7,192	7,684
リース債務	2,209	2,026
未払法人税等	1,701	924
賞与引当金	1,209	619
役員賞与引当金	6	3
株主優待引当金	301	422
資産除去債務	97	40
その他	10,949	12,303
流動負債合計	30,847	34,244
固定負債		
長期借入金	9,535	6,110
リース債務	8,025	7,665
退職給付に係る負債	244	8
資産除去債務	2,778	2,887
関係会社事業損失引当金	9	46
その他	645	868
固定負債合計	21,239	17,587
負債合計	52,086	51,831
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,265	10,265
資本剰余金	11,357	11,385
利益剰余金	40,260	42,297
自己株式	△531	△516
株主資本合計	61,351	63,431
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	18	21
為替換算調整勘定	△969	△455
退職給付に係る調整累計額	△40	△39
その他の包括利益累計額合計	△991	△472
非支配株主持分	489	601
純資産合計	60,849	63,561
負債純資産合計	112,936	115,392

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2023年3月1日 至2023年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自2024年3月1日 至2024年11月30日)
売上高	138,892	151,751
売上原価	49,171	54,243
売上総利益	89,721	97,508
販売費及び一般管理費	83,619	91,832
営業利益	6,101	5,675
営業外収益		
受取利息	153	131
受取配当金	0	0
賃貸収入	272	233
持分法による投資利益	58	209
雑収入	605	703
営業外収益合計	1,090	1,279
営業外費用		
支払利息	251	236
為替差損	-	99
賃貸費用	225	196
雑損失	142	167
営業外費用合計	618	698
経常利益	6,573	6,256
特別利益		
固定資産売却益	408	33
受取補償金	175	85
関係会社出資金売却益	-	28
特別利益合計	583	147
特別損失		
固定資産売却損	1	19
固定資産除却損	90	92
減損損失	401	552
契約解約損	18	5
貸倒引当金繰入額	-	24
関係会社事業損失引当金繰入額	-	36
特別損失合計	511	730
税金等調整前四半期純利益	6,645	5,673
法人税、住民税及び事業税	2,467	2,177
法人税等調整額	△204	56
法人税等合計	2,262	2,233
四半期純利益	4,382	3,439
非支配株主に帰属する四半期純利益	43	108
親会社株主に帰属する四半期純利益	4,338	3,331

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年3月1日 至 2024年11月30日)
四半期純利益	4,382	3,439
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	5	3
為替換算調整勘定	968	500
退職給付に係る調整額	△2	0
持分法適用会社に対する持分相当額	39	18
その他の包括利益合計	1,011	522
四半期包括利益	5,393	3,962
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	5,339	3,849
非支配株主に係る四半期包括利益	54	112

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成していません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりです。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年3月1日 至 2024年11月30日)
減価償却費	4,616百万円	4,952百万円
のれんの償却額	84 "	93 "

(セグメント情報等の注記)

I 前第3四半期連結累計期間(自 2023年3月1日 至 2023年11月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	吉野家	はなまる	海外	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	92,764	21,785	20,183	134,733	4,158	138,892	—	138,892
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	779	143	—	922	935	1,857	△1,857	—
計	93,543	21,929	20,183	135,656	5,094	140,750	△1,857	138,892
セグメント利益	5,871	1,442	1,766	9,081	205	9,286	△3,184	6,101

- (注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、連結子会社12社を含んでいます。
 2. セグメント利益の調整額△3,184百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△3,309百万円、セグメント間取引消去172百万円及びのれんの償却額△47百万円が含まれています。
 3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2024年3月1日 至 2024年11月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	吉野家	はなまる	海外	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	101,325	23,056	21,127	145,509	6,242	151,751	—	151,751
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	784	133	—	917	1,017	1,934	△1,934	—
計	102,109	23,190	21,127	146,427	7,259	153,686	△1,934	151,751
セグメント利益	5,709	1,841	1,149	8,700	324	9,024	△3,349	5,675

- (注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、連結子会社13社を含んでいます。
 2. セグメント利益の調整額△3,349百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△3,470百万円、セグメント間取引消去177百万円及びのれんの償却額△56百万円が含まれています。
 3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。